

(4)

4批

んとかを牛に入るとか、また木村毅は、更に新
規規ななんとかなんとかなを牛に入れるだらう
から。――後から来るものは、それがアキレ
スであつても、~~電~~追追ひ追越越し得ないことは、
ギリシヤの昔から、~~ち~~んんと相場がきまつて
ある。
果してさうだらうか、果もしもしと、電さんと呼
~~多~~追追ひ追越越す方方で、追追ひ追越越さる方方でなにか
ら、やはり困る。

かゝる結果だらうか、この頃頃なんとかし批
評評の方方へ世人の注意をひかるとする努力が見
受けられる。

ところで月月見見の四百十九頁を見ると、
に批評家無用論論なる文字が見受けられる。
て見ると昔から批評や批評家は厄介な代物で
あつたやうである。

小林木太郎曰く、垢垢を洗洗ひて癩癩を覓覓むるは、
今の評者の通患患なり。肉肉を割割いて瘻瘻を成成すは、
いまの評者の通病病なり。偏偏りて見、私私に意意を

井汲清治

20 10